

宜 基 渉 第 69 号  
平成 30 年 3 月 26 日

沖縄米国総領事  
ジョエル エレンライク 殿

宜野湾市長 佐喜眞 淳

### 米軍機による夜間をはじめとする騒音被害について（抗議・要請）

騒音については、機会あるごとに抗議・要請を実施し、改善を強く要望しておりますが、昼夜を問わない米軍機による騒音は、依然として市民生活に多大な影響を及ぼし続けております。

特に夜 10 時以降の夜間騒音の被害は深刻で、市内全域で夜間騒音が多数測定されており、3 月 20 日には、夜間騒音等の被害を訴える苦情が 1 日に 24 件も寄せられ、今月だけでも 65 件にも上っております。

加えて、本年度は現時点で既に 455 件もの苦情が寄せられ、騒音等に関する苦情は過去最多となっており、市民は日常的に騒音に晒された生活を余儀なくされております。

苦情の内容も、「夜間訓練がうるさく、子供が何回も起きています」といったものや、「いつ落ちてくるかわからない、怖い。」といった、夜間飛行への恐怖を訴えるものなど、市民の切実な声であります。

9 万 8 千名余の市民の生命・財産を守る宜野湾市長として、このような現状は断じて容認できず、厳重に抗議するとともに、下記の事項について強く要請いたします。

### 記

- ・「普天間飛行場における航空機騒音規制措置」を厳格に遵守し、夜 10 時以降の飛行及び地上での活動は実施しないこと
- ・家族団らん及び、休息の時間である夜 7 時以降の飛行を抑制すること
- ・外来機の飛来禁止及び、住宅地上空での旋回飛行訓練を禁止すること
- ・抜本的解決のために、普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還の実現と、市民が実感できる危険性の除去及び、基地負担の軽減を確実に実施すること